

看護基礎教育における地域看護学の 必要性と教育内容・方法に関する要望書

**追加説明資料
平成30年8月13日**

一般社団法人日本地域看護学会

看護教育の内容と方法に関する検討会報告書

平成23年2月28日厚生労働省

【看護師に求められる実践能力】

- 1 ヒューマンケアの基本的な能力
- 2 根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力
- 3 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力
- 4 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力
- 5 専門職者として研鑽し続ける能力

看護教育の内容と方法に関する検討会報告書

平成23年2月28日厚生労働省

【看護師等養成所の運営に関する指導要領 別表3】

看護師教育の基本的考え方、留意点等

- 1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う。
- 2 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
- 3 科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う。

- 4 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護を健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う。
- 6 専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。



○地域包括ケアの必要性の増大
○看護師の働く場の拡大
⇒看護師に地域看護の視点が必要

看護師の働く場所の拡大と、看護師に「地域看護の視点」が求められる背景

人口構造の変化

- 高齢者の増加、要介護者や認知症の増加
- 生活の場での看護ニーズの高まり

疾病構造の変化

- 感染症対策から生活習慣病対策への移行
- 生活しながら療養、慢性的に長期的に療養

医療技術の向上

- 在院日数の短縮、高度医療依存者の退院、在宅療養技術の向上、入院から外来・在宅

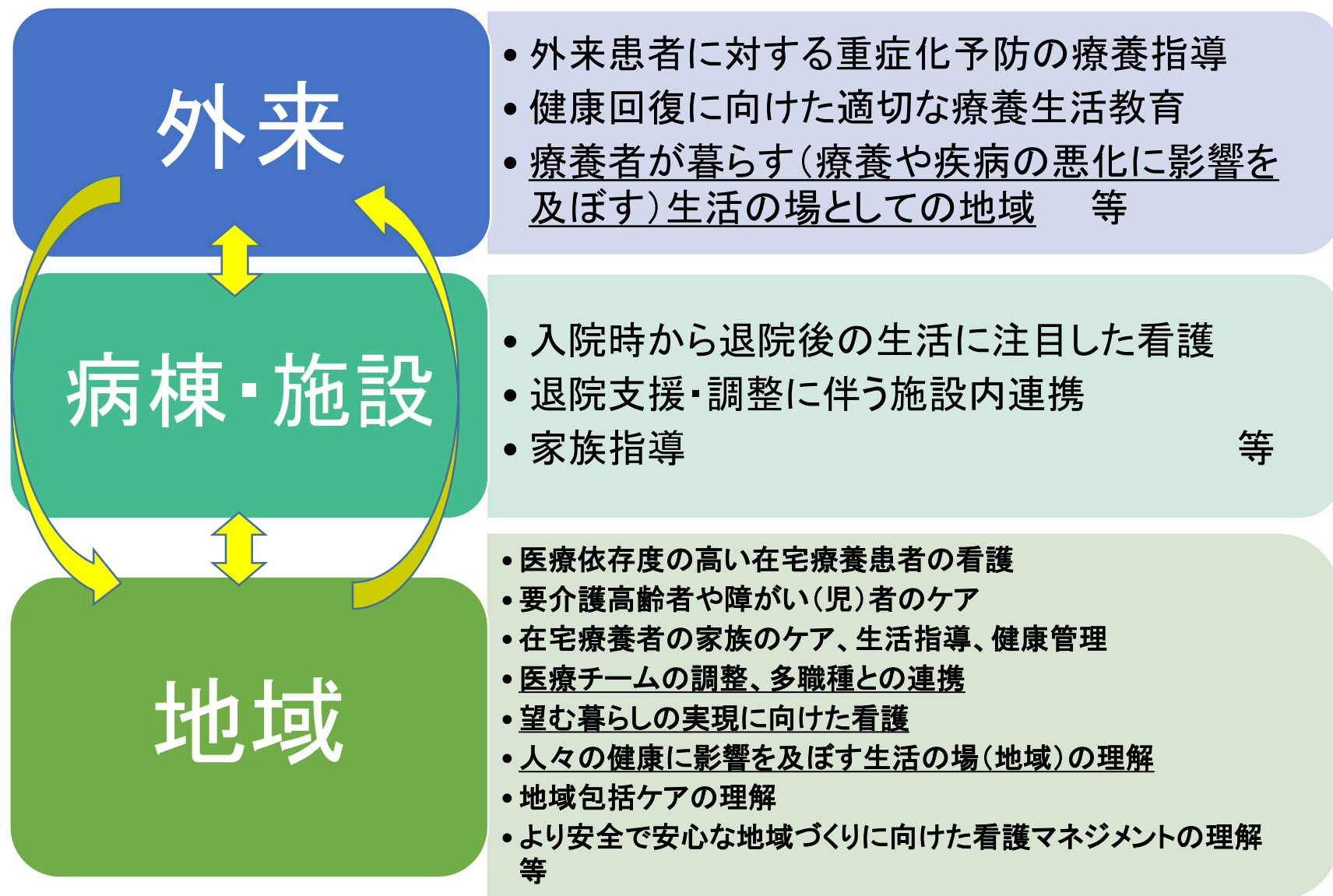
ニーズの質的变化

- 出来るだけ地域で家族とともに生活したい
- 家庭・職場・学校や地域社会での暮らし継続

健康危機管理事案の多発

- 感染症、生活習慣病、医療安全、介護等安全、精神保健医療、児童虐待、多発する災害、生活環境安全、医薬品医療機器安全

看護師に「地域の視点」が必要な活動例



保健師助産師看護師学校養成所指定規則

(平成25年4月1日施行)

【第四条第三号】

- ・・教育内容は別表三に定めるもの以上であること

【別表三(第四条関係)】

・・統合分野

在宅看護論	4単位
-------	-----

看護の統合と実践	4単位
----------	-----

臨地実習	在宅看護論	2単位
------	-------	-----

	看護の統合と実践	2単位
--	----------	-----

保健師助産師看護師学校養成所指定規則

【別表三（第四条関係）】（平成25年4月1日施行）

＜専門看護学＞

- ・健康の保持・増進及び疾病の予防に関する看護の方法を学ぶ。
 - ・成長発達段階を深く理解し、様々な健康状態にある人々及び多様な場で看護を必要とする人々に対する看護の方法を学ぶ内容とする。
- ⇒健康の保持・増進が対象別であり、地域で暮らす人々の健康に影響を及ぼす生活の場としての地域の健康の保持増進は考えられていない。

＜統合分野＞

○在宅看護論 4単位＋臨地実習 在宅看護論 2単位

- ・地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し地域での看護の基礎を学ぶ。
 - ・地域で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、他職種と協働する中での看護の役割を理解する内容。
 - ・地域での終末期看護に関する内容も含む。
 - ・訪問看護に加え、地域における多様な場で実習を行う。
- ⇒対象が地域で望む暮らしを実現できるように、地域資源をアセスメントし、必要な(不足する)ケア資源を検討・提案することは不十分である。

○看護の統合と実践 4単位＋臨地実習 看護の統合と実践 2単位

従来の看護基礎教育で弱い点と 地域看護学の立場からみた教育内容の必要性

○対象が地域で望む暮らしを実現できるように、地域資源をアセスメントし、必要な(不足する)ケア資源を検討・提案することは不十分である。

○健康の保持・増進が対象別であり、地域で暮らす人々の健康に影響を及ぼす生活の場としての地域の健康の保持増進は考えられていない。

看護基礎教育における‘地域看護学’

「地域で暮らす人々の健康と地域全体を視野に入れた健康をまもる看護」

1) 地域で暮らす人々の健康をまもる看護：

- ①地域で暮らす看護の対象のアセスメント
- ②対象が暮らす地域の特性のアセスメント
- ③地域特性に基づいて必要なケア資源の提案
- ④地域で暮らす対象の望む生活の実現支援
- ⑤対象支援のため他職種連携・協働・調整

2) 地域全体を視野に入れて人々の健康をまもる看護

- ①看護の対象となる「地域で暮らす人々」の理解
- ②人々の健康に影響を及ぼす生活の場としての地域の理解
- ③「地域」が看護の対象となることと、その方法の理解
- ④健康の保持増進と疾病予防の方法、支援技術の理解
- ⑤より安全で安心な地域づくりに向けた看護マネジメントの役割と機能の理解

地域資源をアセスメントし、周囲に働きかけて対象が地域で望む暮らしを実現した例： 人工呼吸器を装着しながら小学校への通学を実現した事例

提供：諏訪部高江氏（訪問看護師）

訪問看護の対象：ミオパチーで在宅人工呼吸器療法中の小学校の入学を迎える児

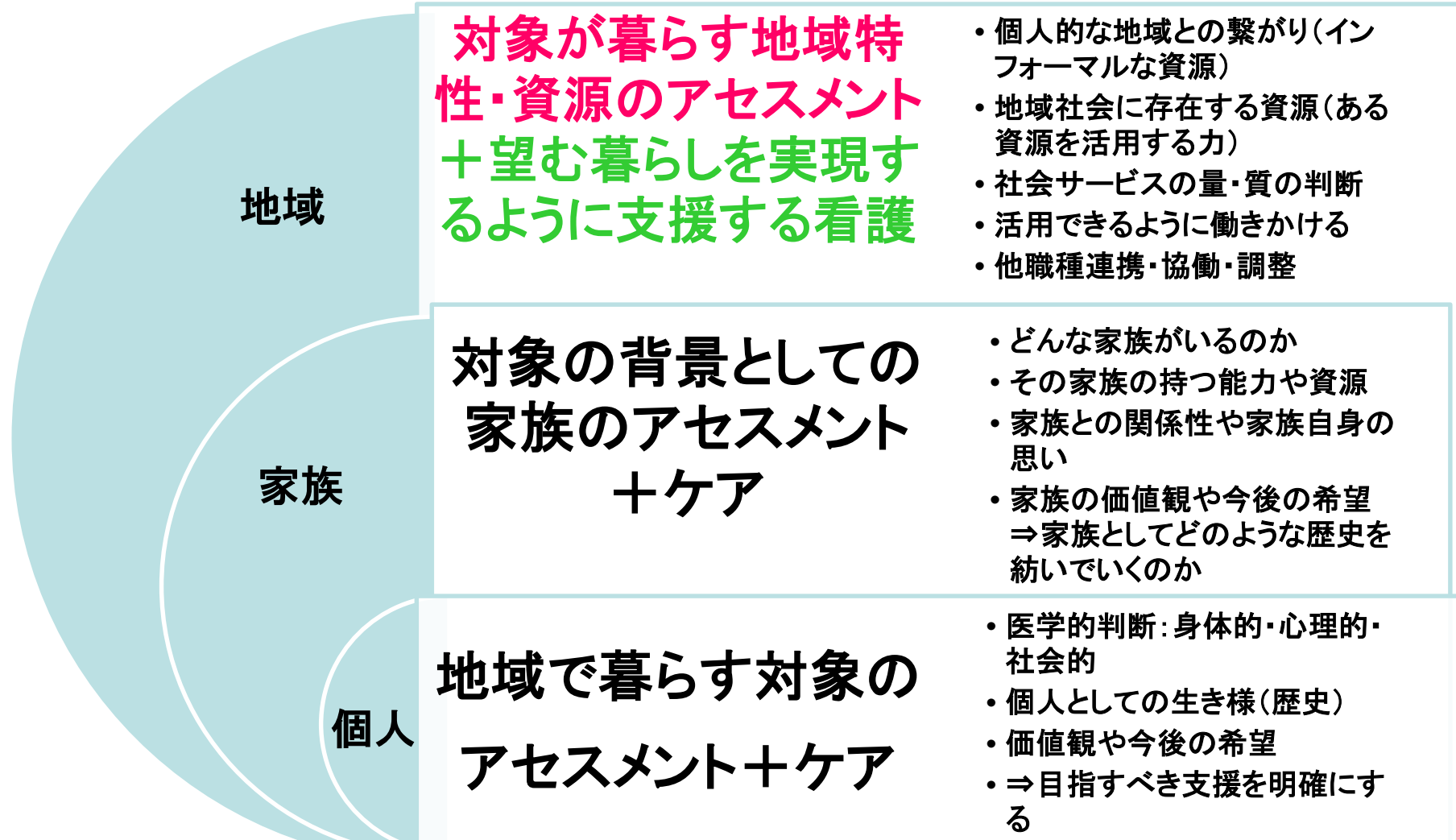
両親の願い：集団の中で教育を受ける機会を作り、毎日、学校に通わせたい

- 訪問看護師として、普段は在宅療養の支援だが、小学校入学のための支援を展開
- 支援目標 「通学手段の確立や、学校での親の付き添いを不要にする」
- 児は呼吸器を装着している状態で24時間援助が必要な状態、親は夜間の睡眠も十分にとれない状況ため、小学校に母親が常に付き添うと、身体的負担が大きく体調管理にも影響する恐れがあると考え、学校では少し母親が休める時間を作りたい

支援内容

- 児が確実に通学できる状況であることを理解してもらい、学校側で担える行為が増えていくことが重要と考え、医療に対しての不安を払拭するために、情報提供や医療機器の取り扱いについての説明、必要な対応について学校看護師に説明する。
- 既存のサービスの枠を超えて、学校で訪問看護を提供することに対し、使える制度の創設を検討。日中一時預かりのサービスを利用し、母親の休養時間を確保。
- 小児科医・リハビリ専門医（在宅・病院）医療機関のNS/チャイルドディスタッフ・OP/PT/ST・訪問介護などと連携を行いながら統一した方法を確立

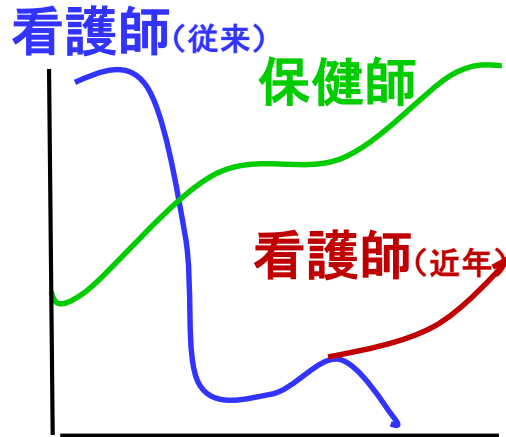
在宅療養者が望む暮らしを実現できるように、 訪問看護師が活動する際に必要な能力



⇒「地域で暮らす人々の健康をまもる看護活動」について理解し、
指導の下で実施できるようにするための看護教育が必要

自分は手探りでやって、悩んだ末に大学院に行ったが、そこで、解決するための方法がある事、学問として教えられている事を知った！

看護師と保健師の活動の対象



個人 家族 集団 地域

保健師教育

- <公衆衛生看護学><疫学><保健統計学><保健福祉行政論><公衆衛生看護学実習>
- ・ 個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ(共同体)及び地域を構成する人々の集合体の健康増進・改善を目指すアプローチを学ぶ。
 - ・ 個人・家族の健康課題への支援から地域をアセスメントし、顕在化・潜在化した健康課題を明確にする方法を学ぶ。健康課題への支援の計画・立案を学ぶ。
 - ・ 個人と地域全体を連動して捉え、地域全体にPDCAを展開する。
 - ・ 人々の健康行動の特性及び効果的な介入方法と技術、集団の教育方法や集団力学等を学ぶ。
 - ・ 地域の社会資源を活用し、生活を支援する。
 - ・ 地域ケアシステムで地域の人々や医療・福祉の他職種と協働する方法を知る。
 - ・ 地域の人々や医療・福祉等の他職種との協働・マネジメントができる。
 - ・ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを連動させて活動を展開する。
 - ・ 産業保健・学校保健活動を展開する。
 - ・ 事例を用いて活動や事業を評価し、システム化・施策化につなげる。
 - ・ 健康危機管理に関わる。
- ⇒対象集団全体の健康を高める看護の視点と方法論(システム化・施策化等)

1. 療養場所の多様化。地域包括ケアの重視、
看護師の働く場所の拡大と地域への進出

⇒地域の特性や資源をアセスメントし、対象が自ら望む暮らしを実現できるように支援し、多職種連携・協働、調整の必要性。

2. 少子高齢化、健康格差拡大、災害多発など、人々の暮らしを脅かす様々な社会的課題の増加

⇒安全で安心できる、より健康な地域社会をつくる重要性の増加

1) <地域で暮らす人々の健康をまもる看護>を強化する必要性

- ①地域で暮らす看護の対象のアセスメント
- ②対象が暮らす地域の特性のアセスメント
- ③地域特性に基づいて必要なケア資源提案
- ④地域で暮らす対象の望む生活の実現支援
- ⑤対象支援のため他職種連携・協働・調整

2) <地域全体を視野に入れて人々の健康をまもる看護>を理解する必要性

- ①看護の対象となる「地域で暮らす人々」の理解
- ②人々の健康に影響を及ぼす生活の場としての地域の理解
- ③「地域」が看護の対象となることと、その方法の理解
- ④健康の保持増進と疾病予防の方法、支援技術の理解
- ⑤より安全で安心な地域づくりに向けた看護マネジメントの役割と機能の理解

<在宅看護論 4単位>

⇒対象が地域で望む暮らしを実現できるように、地域資源をアセスメントし、必要な(不足する)ケア資源を検討・提案することは不十分である。

<看護の統合と実践 4単位>

<専門看護学>

⇒健康の保持・増進が、対象別であり、地域全体の健康の保持増進が考えられていない。

看護師教育

地域包括ケア時代に求められる看護基礎教育の強化

－ 看護基礎教育における地域看護学の必要性と教育内容・方法 －

一般社団法人日本地域看護学会

背景

1. 医療の高度化、入院期間の短縮化等に伴って療養場所も多様化し、地域包括ケアの重要性が認識され、看護職、殊に看護師の働く場所が拡大している。
2. 少子高齢化、健康格差の拡大、多発する災害など、人々の暮らしを脅かす様々な社会的な課題も増え、安全で安心できる、より健康な地域社会をつくることが一層重要である。

地域看護学の目的

地域看護学は、健康の維持、増進、回復、健康状態の悪化予防、安らかな死の実現を通して、すべての人々のQOLの向上とそれらを支える公正で安全な地域社会の構築に寄与することを目的としている。

地域看護学の立場から見た看護基礎教育に必要な教育内容

1) 地域で暮らす人々の健康をまもる看護：

- ①地域で暮らす看護の対象のアセスメント
- ②対象が暮らす地域の特性のアセスメント
- ③地域特性に基づいて必要なケア資源の提案
- ④地域で暮らす対象の望む生活の実現支援
- ⑤対象支援のため他職種連携・協働・調整

2) 地域全体を視野に入れて人々の健康をまもる看護

- ①看護の対象となる「地域で暮らす人々」の理解
- ②人々の健康に影響を及ぼす生活の場としての地域の理解
- ③「地域」が看護の対象となることと、その方法の理解
- ④健康の保持増進と疾病予防の方法、支援技術の理解
- ⑤より安全で安心な地域づくりに向けた看護マネジメントの役割と機能の理解

効果

- ◆ 地域看護学の考え方・理念・方法論を、あらゆる看護職が共通に持つべき知識および技術として習得できる。
- ◆ 看護基礎教育における地域看護学の学修を通して、卒業後どのような分野の実践に携わろうとも、必要な知識・技術・態度を卒業時に修得できる。

演習・実習の方法

- ◆ 対象の健康や生活を経年的かつ長期的な視点で把握し、看護を展開できるようにする。
- ◆ 事例の対象理解とその事例が暮らす地域のアセスメントの双方を目的として設定する
 - a. 地域イベント（健康まつり）や住民組織活動（サロン）等への参加を通じた地域住民との交流
 - b. 協力の得られる地域住民宅への継続的な訪問による体験学習（経年的な視点を養い、協力者の長所と潜在的な健康課題を把握し、対処について工夫できる）
 - c. 支援の必要な地域住民の把握と健康相談、健康教育
 - d. 居住設備の整った家と事例を用いた体験学習
 - e. 療養している個人・家族の願いに叶う生活（障害児が学校に通いたい等）を実現するために、地域に存在する資源を探し、活用可能にする方策や働きかけの方法を検討する
 - f. 地域包括支援センターにおける地域住民や多職種と協働した地域看護活動

地域看護学を、看護師の教育内容として統合分野に位置付けること

地域看護学は、看護師教育課程で「地域（多様な場）で暮らす人々への看護を提供する際に不可欠の考え方・スキルを学習する」ものとして、統合分野に位置づける。